

## 第 23 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	特定非営利活動法人日本交流分析協会 松山会
開催日時	2022 年 2 月 5 日 15:00～17:00
テーマ	女が男と、男が女と実現するそれぞれの自己
形 式	講演（愛媛 CATV にて放映）
講師等	コーディネーター 交流分析士インストラクター 弘岡 順子 講 師 交流分析士教授 廣瀬 一郎
<p>〈内容〉</p> <p>女性と男性、それぞれがお互いの特性を理解し、お互い共同しながら自己実現をしていくにはどうすればいいのか。その為のヒントを見出していきました。</p> <p>初めに、事前にアンケートを 60 名にとりました。</p> <p>① 男女の違いを感じるか。（はい・いいえ・どちらでもないの 3 択）</p> <p>② 仕事上での問題発生をどのように感じ・考え・どう行動するか。（記入方式 10 項目）</p> <p>③ 男女は共同できるか。（はい・いいえ・どちらでもないの 3 択と理由記入）</p> <p>この上記 3 つの質問に対しての集計結果を発表しています。</p> <p>その後、心理学的観点から見る女性とは・男性とはという男女それぞれの特性を、アンケートの結果も踏まえながら説明しています。</p> <p>アンケート集計結果発表と、「女が男と、男が女と実現するそれぞれの自己」の講演との 2 部仕立てになっています。</p> <p>〈まとめ〉</p> <p>アンケートの集計結果では、「男女の違い」については、男性女性ともに 7 割ほどの方が違いを感じるという結果となり、また、「男女は共同できるか」については、出来ると答えた女性が約 6 割、男性が約 8 割という結果でした。</p> <p>日頃から、違いを感じている方が多数いる中で、どちらかという女性より男性の方が違いはあるけれども、共同は出来ていると感じている方が多いという結果となりました。</p> <p>記入方式の、「仕事上での問題発生」では、女性は、最初に感情面から始まり、思考そして行動の順のように詳しく記入される方が多い傾向にあり、男性では感情にはあまり触れず、行動として端的に表す方が多いという傾向が特徴といえるようでした。</p> <p>講演では、スイスの精神科医・心理学者ユングの心理学的観点（交流分析の原点である精神分析）をベースとした内容で、「わたしの中にある男性性と女性性？」というような、日頃私たちの意識には上がらない、無意識の中には、それぞれの性別とは別に男性の中にある女性性（アニマ）・女性の中にある男性性（アニムス）があり、私たちの日常の気づかない思考、行動、感情に影響を与えている。私たちは、この、女性性・男性性を両方持っていることに気づき、それぞれの特性も活かしながら生活していく事で、お互いの違いを受け入れながら相互に理解にしていくことができると、より共同、協働ができるのではないかとという講話内容でした。</p>	

※この報告書は、当財団のホームページに掲載させていただきます